京城日報 保存用

昭和十九年十月二十八日

畏し・兩陛下靖國の英靈に御拜

社說 神機到る

防空への戰備

海空陸呼應・わが猛攻續く

我艦隊、灣内に突入、艦船五十五隻を屠る

上陸の敵、約三ヶ師

レイテ灣

大本營發表（昭和十九年十月廿七日十六時五十分）一、レイテ島のわが陸上部隊は十月廿日以降タクロバン南方およびドラッグ附近に上陸せる約三個師團の敵を邀撃奮戰中なり

二、わが航空部隊は十月廿三日以降レイテ灣内の敵輸送船團およびその護衛艦艇を連續攻撃中にして、わが艦隊また廿五日未明同灣内に突入しこれに猛襲を敢行せり、現在までに確認せるレイテ灣内における綜合戰果（自爆未歸還機の收めたる戰果を含まず）次の如し

輸送船 轟沈五隻、炎上十一隻、擱坐四隻、撃破一隻

驅逐艦 撃沈一隻、撃破三隻

大型上陸用舟艇 轟沈十七隻、撃破炎上二隻

航空母艦 撃破一隻

戰艦 擱坐一隻、撃破二隻

巡洋艦 撃沈二隻、撃破三隻

我方の損害 戰艦沈沒および中破各一隻のほか若干の自爆および未歸還機あり

更に空母六、巡艦一

彼我の航空戰繼續中

比島東方

大本營發表（昭和十九年十月廿六日十七時）比島東方海面における彼我航空の戰闘は依然繼續中にして現在迄に判明せる戰果の追加次の如し

撃沈 航空母艦二隻、巡洋艦一隻

撃破 航空母艦四隻

必殺、捨身の殴込み

粒々相摩す亂戰展開

B29廿四を撃墜破

濟州島・九州來襲の米空軍一蹴

大本營發表（昭和十九年十月廿六日十六時）昨廿五日九州および濟州島に來襲せる敵機B29に對し收めたる戰果次の如し

撃墜 五機、撃破 十九機、合計 廿四機

高空で盲爆に終始

綜合戰果表

（レイテ・比島東方・臺灣沖）

	空母	戰艦	巡艦	驅艦	巡艦又は驅艦	輸送船	大型舟艇	艦種不詳	計
撃沈	一八	二	八	三	一	一〇以上	一七		五九以上
炎上・撃破	二一	七	九	六		一五	二	一三	七四
擱坐		一				四			五
計	三九	一〇	一七	九	一	二九以上	一九	一三	一三八

敵打電「救援頼む」

狼狽その極に達す

比島東方

その撃敵の頭を打つ

總督、北青鐵山で激勵

一大反攻を企圖

注目の的、雲南の敵主力

アントワープ北方で激戰展開

英、伊政權を承認

グワテマラ内閣成立

サルヴァドルも成立

米國民は不安

ヤップに敵機

アンボンに卅四機

新鋭輕巡プリンストン沈沒

オクラホマ再就役

ヤルート附近 敵驅逐艦撃破

國境紛爭收拾作 局地的に解決

鮮銀支店長會議

鐵箭

總督府辭令

人事往來

本社來訪

自ら附け人

大義に無言の教訓
"神鷲"信弘中尉を育む總督の士魂

狙ふなら大きな奴
淡々と語った加賀武士の本領

月下の聖域に祈る影
神宮に戰果を感謝する總監

令旨

總裁宮、令旨賜ふ
米英擊滅 日婦の憤激新た

惻々忠烈讃ふ祭文
護國神社合祀祭 幣帛供進の御儀

一億遙拝"午前九時"
明治節"國民奉祝の時間"決る

山葡萄が電波兵器
紅葉前に採取へ總突擊せよ

來年の百石より今年の十石
總務が飛檄

非常によい應徴士
遠藤總監、三たび稱揚

阿部中尉讃ふ

海軍豫備學生
第二次募集

戰果に應へて銃後の挺身
一機一艦に我ら續け・廣瀬陣氏談

敵に必殺の氣合
奉納全鮮銃劍道段者大會

各職域から勤奉隊

伊藤博文公 卅六回法會

西大門署に大貯水槽

放送局 27日

けふ

證券市場

現物仲値

小兒科 朴昶彬醫院

メガネは 村木時計店

城荷造は 紀新組

肺 核結

締切迫る 頑張り寫眞懸賞募集
十月三十日 主催 京城日報社

京日案内

朝鮮麥酒會社
女子事務員採用
丸菱工業所
朝鮮紡織會社
タイピスト採用
朝鮮商業銀行
交換手採用
高級經理係採用
工員緊急募集
千代田生命
昭和精工會社
内勤職員を求む
求貸倉庫
住宅
女子
求貸住宅

工員募集

事務所開設公告
今般左記ニ事務所開設致候ニ付此段謹告
記
京城府西大門區竹添町三丁目一九〇番地
電話代表光化門(3)四一一四一番
海軍施設協力會朝鮮支部
軍建協力會朝鮮支部

解散公告
平壤莫大小工業組合

江原道被服工業組合

朝鮮海陸運輸株式會社

朝日釀造株式會社

新龍山三角地 入院隨意
西原產婦人科醫院
電話龍山④一〇三五番

通添

決戰だ！欠勤防止
本劑を職場に常備して勤務女子の健康を維持增强する幹部の親心こそ欠勤防止必勝の鍵だ
中將湯

溫突焚口

皮膚泌尿科

コタツ

古本

特別配當附 朝鮮信託